

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学

前期日程

科目	化 学
----	-----

総 括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分 量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総 論>

2026年度は例年と同じく大問5問の出題で、配点は各25点に戻った。また、難易度は大幅に難化した昨年と比較すると易しくなったが、入試問題としてはハイレベルである。分量も昨年と比較するとやや減少したが、〔1〕と〔4〕は(1)～(3)まであり例年と比較すると決して少ないわけではない。題材に目新しいものが多く、教科書の発展からの出題も複数あった。

<特記事項・トピックス>

- ・〔1〕(2)では、発展内容の「ラウールの法則」に関する設問が出題された。
- ・〔1〕(3)では、減圧沸騰を含む三重点を通る状態変化が出題された。
- ・〔4〕(1)では、発展内容の「マルコフニコフの法則(マルコフニコフ則)」を解答させる設問が出題された。
- ・〔4〕(2), (3)は、教科書に記載のない「電子の非局在化」や「共鳴構造式」を扱う思考型の設問であった。
- ・〔5〕問2で、β-アミノ酸の構造に関する設問が出題された。

<合格への学習対策>

- ・教科書に載っている知識(特に天然有機、合成高分子も含む有機化学の分野)を反応式も含め、徹底的に学習する必要がある。そうすることで、見慣れない問題でも問題文の誘導などを利用できるようになり、解答へ至ることができる。〔1〕(2), (3)や〔4〕にあるような発展内容に関する設問が含まれていた場合であっても、比較的丁寧な誘導があるため、教科書内容で十分に解答できるよう出題の工夫がされているのが特徴である。したがって、過去問分析や演習が非常に重要で、問題文を利用した解答方法も身に付けておこう。
- ・計算問題は、式展開を省略せず、丁寧にを行うようにし、計算ミス等が極力なくなるように普段から電卓を使わないで計算して、解答を素早く導けるよう練習しておこう。
- ・まれに出題されている〔1〕(3)のような難問は別として、〔2〕(1), (2)や〔3〕(2), 〔5〕(2)のような典型的な標準問題や、もしくはそれより少しだけレベルが高いと思われる程度の過去問は、ミスなく素早く解けるようにしておこう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範 囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
〔1〕	記述 選択	化学	理論 物質の状態変化, 溶液	(1) 問1 水の構造, 状態図に関する標準問題である。 問2 水溶液中の溶媒の水の状態変化に関する図の設問である。蒸気圧降下, 沸点上昇, 凝固点降下について考えよう。 問3, 4 凍結乾燥を題材にした設問である。図1の水の状態図を利用して解答しよう。	やや易
				(2) 問5 水の状態を判断して圧力を求めよう。 問6 ラウールの法則に関する設問である。平衡状態では水溶液PとQの蒸気圧が等しい。与えられた関係を利用して解答を導こう。	標準
				(3) 問7 減圧沸騰を題材にした設問である。はじめに水の状態から考えたほうが正解に至りやすい。問題文から三重点を経由することを読み取ろう、貴ガスがすべて排気したところで沸騰が起こる。	やや難

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

[2]	記述	化学	理論 化学反応とエネルギー, 化学平衡	(1) 問 1 反応エンタルピーについての標準的な計算問題である。 問 2 触媒についての標準問題である。	標準
				(2) 問 3 弱酸の水溶液についての標準的な pH 計算である。 問 4 緩衝液についての標準的な pH 計算である。リード分の内容を上手く活用して素早く計算しよう。 問 5 中和点における塩の加水分解についての pH 計算である。塩のモル濃度に注意して解答を導こう。	標準
[3]	記述 選択	化学・ 化学基礎	理論・無機 イオン結晶, 酸化還元反応, アルカリ土類金属元素, ハロゲン元素	(1) 問 1 アルカリ土類金属およびその化合物についての正誤問題である。	標準
				(2) 問 2 イオン結晶の密度に関する標準的な計算問題である。図がなくても解けるようにしておこう。	やや易
[4]	記述 選択	化学	有機化学・合成高分子 脂肪族化合物, 芳香族化合物, ゴム	(3) 問 3 中性・塩基性条件における酸化還元反応式を完成させる設問である。酸化剤, 還元剤の変化をはじめに考えよう。 問 4 多段階の反応についての標準的な反応量計算である。2つの反応に関する反応比を素早く処理しよう。	標準
				(1) 問 1, 2 発展内容のマルコフニコフの法則(マルコフニコフ則)についての設問であるが, 誘導が丁寧であるので解答はしやすいと思われる。	標準
[5]	記述 選択	化学	天然有機・合成高分子化合物 アミノ酸とタンパク質, 合成繊維, 合成樹脂	(2) 問 3 発展内容のベンゼン環の安定性に関するエネルギー計算問題である。丁寧な誘導があるが, かなり古い過去問でも出題されたことがあり, 類題を解いたことがあれば解答しやすかったであろう。	やや難
				(3) 問 4 与えられた図および(1)と(2)の内容も利用する応用的な思考型の問題である。 問 5 イソプレンとアルコール 4, 5 に関する正誤問題である。天然ゴムについての知識も必要である。 問 6 希硫酸に含まれる水素原子に, 水の水素原子も含まれることがポイントである。	やや易
[5]	記述 選択	化学	天然有機・合成高分子化合物 アミノ酸とタンパク質, 合成繊維, 合成樹脂	(1) 問 1 アミノ酸についての知識問題である。 問 2 β -アミノ酸の構造式を書かせる設問である。 β -アミノ酸は 2020 年入試 [5] でも扱われた内容である。 問 3 減少する分子量が水の分子量に相当する。 問 4 酸性条件ではグリシンは陽イオンで存在する。 問 5 硫黄の検出反応に関する標準的な設問である。	やや易
				(2) 問 6 合成高分子化合物に関する知識問題である。 問 7 ビニロンに関する標準的な計算問題である。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を 5 段階 [難・やや難・標準・やや易・易] で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。